

## ガイドライン

## クマ類の放獣に関するガイドライン

山中 正実<sup>1</sup>, 片山 敦司<sup>2</sup>, 森光 由樹<sup>3</sup>, 澤田 誠吾<sup>4</sup>, 釣賀一二三<sup>5</sup><sup>1</sup> 知床博物館<sup>2</sup> (株) 野生動物保護管理事務所<sup>3</sup> 兵庫県立大学自然・環境科学研究所 / 兵庫県森林動物研究センター<sup>4</sup> 鳥根県中山間地域研究センター<sup>5</sup> 北海道立総合研究機構環境科学研究センター道南地区野生生物室

## はじめに

## ガイドラインの目的と使い方

近年、錯誤捕獲の増加にともなって、クマ類に対する知識や経験のない自治体職員が、専門家の支援のない状況でクマの放獣作業に従事するケースが増えている。クマの生態に対する理解や安全面での配慮が不十分な作業を行った結果、人身事故が発生した例も報告されてきている。また、安全管理のために生体捕獲して移動放獣を行うことや、標識装着等の調査研究のための捕獲放獣作業も行われているが、安全対策の知識や技術が十分普及しているとはいえない。

このような状況を受け、日本哺乳類学会哺乳類保護管理専門委員会クマ保護管理検討作業部会では、クマの放獣作業における留意事項を示し、作業の安全確保に資することを目的に本ガイドラインを作成した。

本ガイドラインは、安全で円滑な作業を実施するために遵守すべき指針を示すことを目標として作成したものであり、クマ類の放獣作業の詳細な手順を記したマニュアルではない。このガイドラインを参考にしたとしても、経験不足のまま実行してはならない。必ず熟練者の同行と指導のもとに十分な経験を積んだ上で行うことが必須である。不明な点、より詳細な事項などについては、専門家に問い合わせることを推奨する。専門家が不明の場合には、日本哺乳類学会、哺乳類保護管理専門委員会において、近隣の専門家を紹介することは可能である。

また、熟練者であっても普段実施している手順に問題がないか、本ガイドラインの内容と照らし合わせて今一度確認していただきたい。

## ガイドライン活用における留意事項

作業者は、ガイドライン活用の際に、放獣作業の心構えとして必要な以下の3項目について、よく理解しておく必要がある。

## 1 事故を絶対に発生させるな！

→やってはならないこと、必ずやるべきことを十分に把握し、あらかじめ万全の準備を整えること。

## 2 なめてかかるべからず！

→大型動物を相手にした野外作業では、予想外のことが起こりうる。不測の事態にも柔軟に対応して事故を防止できるよう、二重三重のバックアップ体制をあらかじめ整えておくこと。

## 3 緊急事態に備えよ！

→万が一のトラブルや事故発生などについて、前もっていくつかの想定を行っておき、とるべき対応策についてシミュレーションしておくこと。